



《支援の必要な中高生の豊かな地域生活を考える会》 (つばさの会広報No.5で記載)

愛称はスマイルシード(笑顔の種)と決定しました!子どもたちから笑顔が消えないように、一人ひとり違う種を持つ子どもたちが地域で笑顔で暮らしていけるように・・・。そのきっかけの種をまいて育てていける会になればという思いから考えた愛称です。



スマイルシード発足の趣旨

箕面市では小学生までは学童保育やファミリーサポートが利用でき、長期休み等について保障されていました。しかし中学に入り、支援の必要な子どもたちの個人差はありますが、クラブの積極的参加や地域活動への参加も難しく、とりわけ長期休みの過ごし方についての課題が持ち上がりました。

支援サービスを利用しようと考えた中でも、いろいろな不安が湧き上がってきました。そしてその不安や現状が、今まで行政にあまり届いていないように思われました。その理由として、まず支援サービスを受けたいが具体的にどうしたらいいのかわからない、困っている人自身が日々の生活の中で余裕がない、困っているがあきらめている、少ない支援の中で情報を開示してしまうと希望者が増えて必要度の高い人が利用しにくくなるのではないかと声があり動けない。そして小中学生では「ゆうやけの会」「つばさの会」はあるけれども「箕面市肢体不自由児者父母の会」や「箕面手をつなぐ親の会」に入っている人が少なくなってきた事などがあるのではないかと考えました。

そこでそのような困っている声を集め、現状を把握し、行政に伝えると共に、親同志が情報共有することを目的とする会としてこの会を発足いたしました。

この活動を通して親子でも交流できたら嬉しく思います。そして子どもたちの大切な思春期の時期を豊かに過ごしてほしいと切実に願います。

☆スマイルシード発足のきっかけは、つばさの会 ゆうやけの会員に実施したアンケートでした。自分自身や身近な方の「困っている」という声他に多くあり、とりわけ長期休みや余暇の過ごし方において切実な声が集まりました。

そして、つばさの会からの障害福祉課に提出した質問の回答には、放課後教室の待機、ショートステイの使いにくさ、Nプランにおける支援の必要のある中高生のフリースペースも検討中(H16年のNプランより)という厳しい現状が明らかになりました。

そこで私たち保護者が何かできることはないのかと考えて発足したのがこの会です。

中学生になると支援学校・地域の学校と進路も様々で、「学校」という枠を超えて情報共有ができたと思っています。

学校卒業後に目を向けると、今の長期休みや余暇の問題は深刻でないと思われるかもしれませんが、地域で気軽に集う場所があり、挨拶を交わすという一見あたり前のような環境が支援を必要とする子どもたちには少ないのではと思います。

☆そこで、これからの取り組みとして・・・

- 次期子どもプラン素案に対する意見交換
- 参加できる余暇活動の情報収集と提供
- 保護者のネットワークを利用して情報提供
→人と人をつなげる
例：○○高校に通っている方の話が聞きたい・・・等
- 他の団体とのコラボ
- 事業所・作業所・進路について情報収集と提供
→将来にむけて何が必要なのか・・・
余暇時間にやっておくことはないのか・・・
どんなスキルが必要なのか・・・

などを考えてます。

☆ご意見、情報を集めていますので、一緒に活動されたい方はご連絡下さい。

<五中>

国仙谷直美

mell : n.kokusenya.@docomo.ne.jp

<一中>

竹下千恵子 大向尚美 田村美智子

高田敬子 阪東行子

<豊中支援>

山尾康子

<ロゴデザイン協力>

国本りか

